

ヒトカラNEWS

Presented by co-creative design studio

~hitocolor~

VOL, 2

発明家的発想で アイデアを生む方法

常識を疑うこと
から始める

3つの発想法

問題解決法
水平思考法
組み合わせ法



発明家的発想

目の前に「できないこと」が現れたとき、すぐに「どうすればできるのか」を考える。「できないこと」にワクワクを感じてみるのも大切かもしれない。さまざまな想いを感じながら、アイディアが生まれるのが楽しみになった。



答えはひとつじゃない。

今ある「知識」と「経験」で一つの答えを導き出すことがよくある。

でも、ひとたび答えが出ると、考えることをやめてしまっている自分がある。この答えはあくまで自分の知っているものでしかつくられていないのに。

「答えはひとつじゃない。」こう思いながら、日々答えに疑問を持ち、考え続けなければならぬ。

自分ひとりで考えるには、限界がある。だったら、みんなの考えを聴いてみればいい。そうすれば、自分の考えの枠を超えて新しい何かが生まれるだろう。

自分たちだけの評価指標

「飯南町を豊かにする自分たちだけの評価指標」をつくってみた。すると、『1年間で見える流れ星の数』『1日に挨拶する人数』など素敵な指標ができた。

住んでいる私たちは、とても幸せに暮らしているのに、私たちのまちにきたこともないのに勝手にランク付けされることがある。

誰かが決めたものよりも、自分たちなりにまちの未来をつくる必要があるのではないだろうか。

3つの発想法を習得

発明家的発想をするコツについて3つを学んだ。

①問題解決法

社会や地域、またはそこに住む人たちの困りごとを解決する考え方。

②水平思考法

Aで行われているものをBにも導入する考え方。

(例) 特定保健用食品のコーラ

③組み合わせ法

既存のものを組み合わせるだけの考え方。

(例) コインランドリー + 喫茶店 = 喫茶ランドリー

クラフトペーパー

机に敷かれたクラフトペーパー。受講者は、感じたことや思い付いたことなどを自由に書くことができる。

決して書くことが目的ではないが、書くというアウトプットから新たな気付きを生むことができる。

パソコンやスマホが普及する今、紙に書くというアナログな動きもうまく活用していきたい。

次回は『地域づくりアイディアづくり』

FOCUS ヒトカラ人

「同じ想いの人と」

(熊谷怜史さん)

私は、もともと地域活動に興味がありました。高校時代の同級生たちと地元で恩返しできることはないか考えて、『from 1』というグループを立ち上げました。町内で水鉄砲大会などの活動を行う中で、同じような想いを持った人と繋がりたいと思い受講しました。

受講していて、思ったことを素直に言える雰囲気がとても心地よく感じました。私はまちづくりにおいて、正解も不正解もないと思っています。そんな中で新たなアイディアをつくり出すために、雰囲気大切だということを気付かされました。

この講座を通して、主体的に企画を実行できるようになりたいです。そのためにも、アイディアづくりから今の雰囲気を大切にして、進んでいきます。

